

京都学園大学「京學堂」 京フルーツプロジェクト

活動地域: 右京区、宕陰地区

活動時期: 平成 27 年 4 月～

大学・団体名: 京都学園大学経済経営学部学生チャレンジショップ [京學堂]

活動内容

本事業の対象地域である宕陰地区は、美しい自然環境や景観に恵まれている一方で少子高齢化が進み、後継者不足、地域コミュニティの維持等が深刻な課題となっている。このプロジェクトは、まず学生自身が宕陰地区の魅力と課題を認識し、地域の人達と一緒に何ができるか考えていくことをテーマとしている。現在はこの地域でリンゴが栽培されていることに着目し、この地域の魅力を学生の立場から発信していくことを目指している。具体的な活動としては、宕陰地域でのボランティア活動、太秦キャンパスにある常設店舗での商品販売、学内外でのイベントを利用した PR 活動、バイオ環境学部と連携した新商品開発などがある。

連携メンバー及び役割

経済経営学部 教員チーム	授業の一環として学生チャレンジショップ「京學堂」の運営を行っており経済経営学部教授がサポートを行う
授産施設	第三かめおか、あじさい園、かしの木学園などの授産施設連携を行い商品開発など積極的に行う
バイオ環境学部	地域や商品開発に関して連携を行う
外部出店	京都ファミリーやイオン、MOMO テラスなどに外部出店を行い宕陰地区などの知名度向上を行う
越畑農事組合	越畑で収穫されるフルーツの提供
宕陰自治連合会	嵯原を中心とした宕陰特産物の提供

これまでの取組の成果・活動

するうえで工夫した点

これまで過去宕陰地区の特産品を京學堂や外部出店で販売を行ってきたが「ただ仕入れて販売するだけでなく、地域を巻き込んでのイベントを開催するなど、地域を盛り上げていく仕掛けをつくってほしい」と意見を頂いたため越畑 DAY でフレンドパークまつばらで提供されている十割そばを提供するなど地域を巻き込んでのイベントに取り組んできた。また、バイオ環境学部と連携し越畑産の摘果リンゴを使用した試作品を製作するなど経済経営学部だけではなく大学全体で取り組んでいる。

今後の課題と目標

・今後の課題

今回のプロジェクトの、中心課題である宕陰地域で収穫されるリンゴ・ブドウの活用方法を検討していきたい。今年、バイオ環境学部からは摘果リンゴを使った、リンゴシロップ等の提案があったが、完熟したリンゴを使った場合との味比べをしてみること、そして他の活用方法がないか引き続きいろいろな可能性を模索してみたい。

・目標

活動の中心である宕陰地区で収穫できるフルーツを使った新商品の開発。また、地域の人へのふれあいの機会を増やし地域の人達に必要なと思われる事である

